

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

020	新湘南国道	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
総括事項	新湘南国道が計画されている平塚市から大磯町に至る海岸は、自然の形態、広がり、海岸線の位置等からみて、湘南海岸の中心的な存在ということができ、現状のなごさ等の地形、自然環境をできるだけ残すことがもとめられる。特に相模川から金目川に至る間は地形条件、環境条件を十分配慮して、景観保全対策を多方面からさらに検討する必要がある。	新湘南国道は、高架を相対的に低く抑え、植樹で景観を保全するなどの対策を計画している。さらに事業実施までに、現計画をもとに景観保全対策を多方面からさらに検討する。環境保全対策については、高架型式の検討を行い事業実施者、関係機関とも協議し、より効果的な環境保全対策として実施するようにする。
大気汚染	住宅地を中心に、供用開始前後の自動車排出ガス及び騒音を長期にわたって定期的に測定し、予測結果との検証を行い、結果をあきらかにすること。工事中、飛砂による影響のおそれがあるときには、散水、防じんネット等の対策が講じられるよう配慮しておくこと。	工事中及び供用後、著しい影響がみられる場合は関係機関と協議し、必要に応じて追跡調査を実施し、適切な措置を講ずる。 工事中の防じん対策として、散水、防じんネットの設置、仮設道路の防じん処理、切土盛土箇所での速やかな緑化等を必要に応じて実施する。
騒音・振動	学校、住宅等への道路交通騒音による影響がみられるため、計画道路の防音対策の検討、連続桁型式の採用など効果的な対策を検討すること。 また、桁の構造等により低周波空気振動の発生も考えられるため、構造を検討し、供用後はジョイント部の維持管理に配慮すること。	計画道路の防音対策を行うため、評価目標を満足させており、さらに「学校環境衛生の基準」を満足させる。なお、連続桁型式の採用を検討する。また、低周波空気振動については、十分解明されていないが、ジョイント部の平坦性を確保すること、剛度の高い橋梁構造とすることなどの対策を講ずる。
動植物・生態系	陽樹であるクロマツ林の一部に日陰が生じ、生育に支障をきたすことも考えられるので、透光性のある遮音壁の採用などの配慮をすること。	クロマツの日照については、桁高を低くするとともに、必要に応じて遮音壁に透明板を採用するなど、生育に支障のないよう配慮する。
電波障害	遮へい、反射いずれの電波障害についても、事業実施前と後の現地調査を十分に行い必要な対策を講じていくこと。	事業実施前後の現地調査を十分に行い、著しい障害が生じている場合には損害等にかかわる国の定める要綱等に基づき対応は図れるものと考えている。
安全	茅ヶ崎工区には近接して中島中学校、柳島小学校があり児童、生徒の安全対策を具体的に検討すること。 平塚、大磯地区では、工事車両の出入りは幹線道路に限定し、住宅地域への出入りは行わないよう留意すること。	児童、生徒の安全対策は、作業員、運転手に対して安全教育を行い、出入り口の誘導員の配置等により配慮する。 工事車両の出入りは、国道129号などの幹線道路に限定して行うよう、また、工事運転手等に対して安全教育を行うなど、交通安全に配慮する。
景観・レクリエーション資源	海岸部の景観を保全するため、相模川から金目川の区間については、地域の環境特性を十分考慮した景観保全対策を検討すること。 市民の海浜利用に支障を及ぼさないよう、人及び自動車の横断手段の確保に配慮すること。	相模川から金目川の区間については、景観検討の場を設け、事業実施までに現計画をもとに景観保全対策をさらに検討する。 海浜への人、車の出入りについては、実施にあたり関係機関と調整し、海浜利用に支障を及ぼさないようにする。

<p>その他</p>	<p>工事中に発生する残土の処理にあたっては、砂質土を養浜に有効利用することも検討すること。</p> <p>計画道路の地域は、沖積平野の軟弱地盤であり、かつ、東海地震防災対策強化地域に指定されていることも考慮し、高架道路の耐震性については地質調査等十分に行い安全の確保を図ること。</p>	<p>残土の養浜への利用については、関係機関と協議していく。</p> <p>高架道路の耐震性については、実施に当たって地質調査等を十分に行い、設計基準に照らして十分安全なよう詳細設計を行い施工する。</p>
------------	--	---